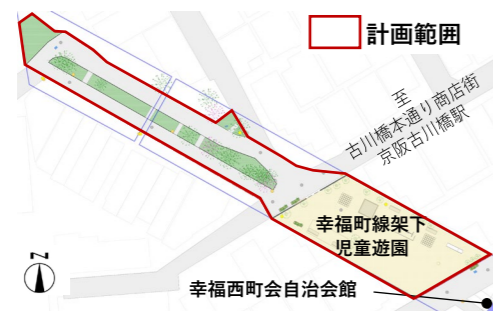


幸福町緑道プロジェクト基本計画（案）～概要版～

01 現況及び課題とポテンシャルの整理

京阪古川橋駅から北西に100m、整備が進む門真市庁舎エリアと駅を繋ぐ動線上に位置する。



課題

- ・緑道部の中高木が繁茂しており、薄暗く、見通しが悪く、電線に木の枝がかかる等の懸念もある
- ・緑道部の通路の舗装が劣化しており、凸凹がある
- ・公園の利用者は1日あたり20人とどまっている
- ・管理のための散水設備がない

機会とポテンシャル

- ・近隣の旧第一中学校跡地活用事業（門真市立文化創造図書館 KADOMADO やタワーマンションの建設等）により、周辺住民や来街者の増加が見込まれる
- ・自治会館に隣接しており、連動した活用が期待される
- ・緑道部の沿道敷地は緑道に対して開いた土地利用で、緑道の魅力化にあわせた活用が期待される
- ・緑道部に面する個人宅では、植物が美しく管理されている
- ・緑道部は四季を感じさせる緑豊かな空間で、春には地域の桜の景勝地となっており、お花見会が催されている
- ・社会実験を契機に、地域住民により寄せ植えを行う活動が継続されている
- ・公園部には5種類の遊具、ベンチ・藤棚等の充実した設備がある
- ・自動車の通過交通はほとんど無いため、歩行者が安心して過ごせる

02 社会実験

有志で実験中に開花するバラの苗植えを実施。社会実験時はブース出店にあわせバラの品評会等を実施した。

<グリーンセミナー>



<PLAY FURUKAWABASHI Vol. 1>



- 「効果検証結果」
- 緑を通じたコミュニティが立ち上がり、花壇づくり活動に関わりたいと思っている
 - 公園は遊具遊びからイベント・憩いまで幅広い使い方ができることが求められている

03 整備コンセプト

まちに彩りが広がるガーデン

～通過する場所から、ゆったりとこのまちを感じられる場所への転換～

PLAYFUL（遊び心のある）なまちを目指し、地域で愛され・育てられてきた緑道・公園の文化を継承し、日常的で気軽な公園の維持管理を通じて、ガーデニングを学んだり、仲間が増え、公園から周辺のまちへと彩りを広げていくきっかけとなるガーデンを目指す。

04 整備方針と実現に向けた方策

整備方針1 植物を育てることに気軽に参加できる空間づくり

- 方策① 住民参加型のガーデンエリアの導入
- 方策② 維持管理の負担を減らす環境の整備

整備方針2 居心地よく魅力的な空間形成

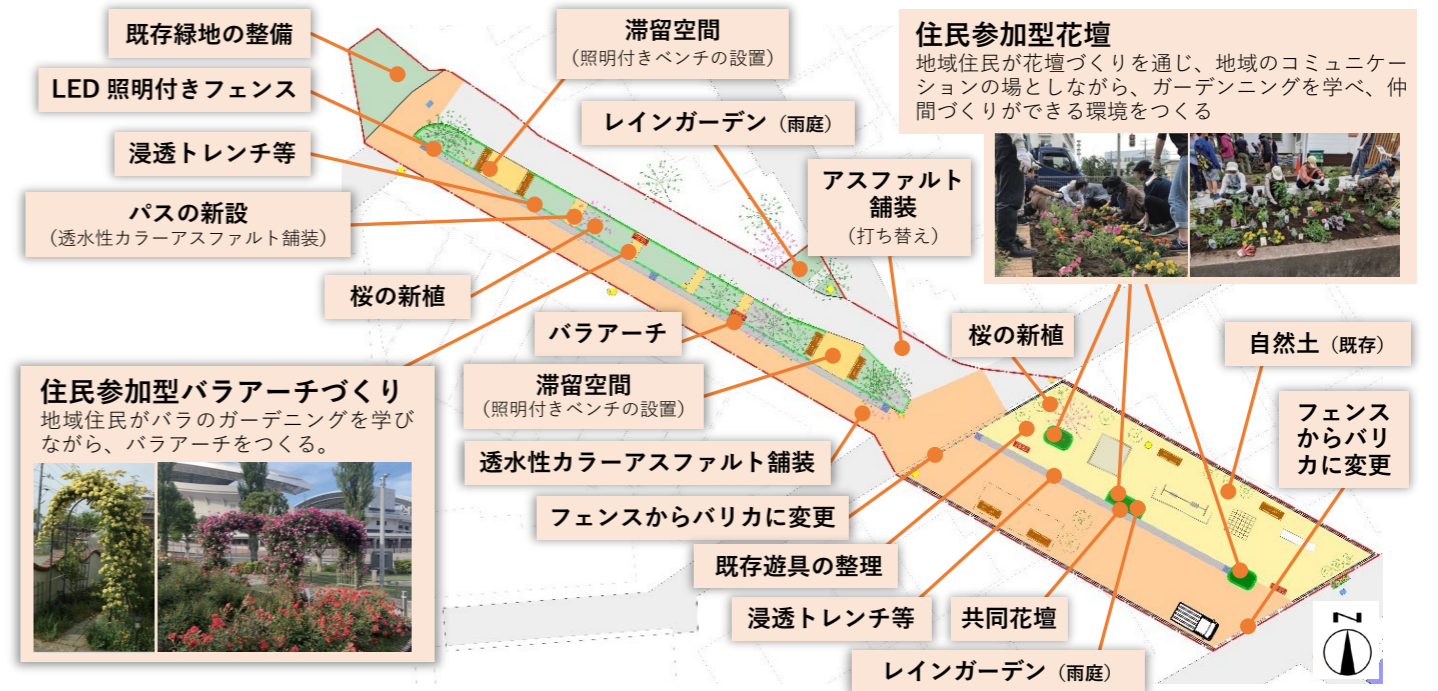
- 方策① 既存の植栽を活用したさらなる美観形成
- 方策② 地域のクールスポットとなる、居心地よく快適性の高い滞留空間の充実

- 方策③ イベントの開催などに対応した設備の導入

整備方針3 周辺と一体となった歩きたくなるウォークブルエリアの形成

- 方策① 楽しい色使いなどによる一体感を感じられる空間づくり

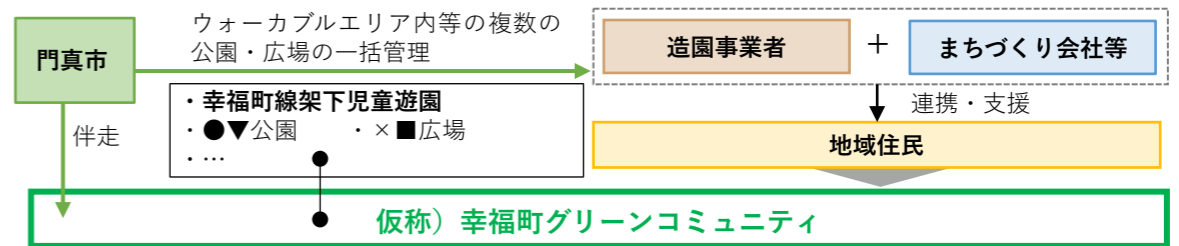
05 整備計画と活用イメージ



06 管理・運営スキーム

本公園の維持管理を通じて、みどりに関心のある地域住民と植栽管理やみどりを介したコミュニティの形成支援（ワークショップの開催、緑の講座の実施等）等の実績・ノウハウを有する造園事業者が連携し、緑を楽しみ、まちに広げる活動を実施する。

「スキーム案」



	緑を楽しむ・まちに広げる活動	管理活動
造園事業者	・緑のワークショップの開催 ・緑の相談会の開催	・高木等の植栽管理
地域住民	・緑のワークショップや相談会への参加 ・花壇でのバラづくり ・バラづくりの普及・啓発 ・お花見会やプチマルシェ等のイベント実施	・中・低木を含む植栽全般の管理

07 整備スケジュール

令和5年5月に「古川橋駅周辺地区まちなかウォークブル推進基本構想」を策定。同構想に基づき、令和5年11月に社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.1」を実施した。その結果を受け、本編をとりまとめた。今後は、エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事を目標とする。

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
	「古川橋駅周辺地区まちなかウォークブル推進基本構想」の策定	「幸福町緑道P」基本計画の策定※		実施設計・工事（予定）
	↑ 社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.1」の実施		↑ エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事を目標とする	

※古川橋駅周辺地区まちなかウォークブル推進基本構想に示された4つのプロジェクトと合わせて策定